

インターバンクの声（2014 年 12 月 8 日）

26 万人以上の数字でもかなり堅調な結果だと予想されていた金曜日の 11 月米雇用統計での非農業部門就業者数は、2012 年 1 月以来の高水準となる 32 万人以上もの増加となった。ニューヨーク時間中のドル円は、雇用統計発表前の小反落したレベルから見れば実に 1 円 50 銭以上も円安が進んだことになる。雇用統計の内訳は、民間部門雇用者数の増加が目立ち、しかも増加数が特定の業種に偏ることがなく、まさに米連邦準備制度理事会（FRB）が特に注目していた業種全般に広がる雇用部門の力強さが確認された。この結果は、依然として雇用の改善には懐疑的だとしている市場委員会メンバーにも影響を与えることになりそうだ。また、市場では円安が一段と進行するとの見方が一般的になって来ているが、米製造業受注の数字が弱めだったように、今週発表される指標が連続して悪化するような事態にならない限り、次のドル円目標レベルは 124 円前半になってきそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。